

1 単元名 「2けたでわるわり算」

2 単元について

わり算については、第3学年で、除数と商が1位数の場合を学習し、第4学年になって、2位数や3位数を1位数でわる場合及びその筆算形式を学習してきている。本単元では、さらに除法の意味の理解を深め、除数が2位数の場合についての計算の仕方を考える中で、その計算は除数が1位数の除法を基にしてできることを理解できるようにすることがねらいである。

そこでまず、「何十でわるわり算」から学習していく。この計算は、次の「除数が2桁の筆算」で仮商をたてるときの商の見当づけをするときに活用されることになる。次の「除数が2桁の筆算」については、除数が1位数の除法で扱った「たてて かけて ひいて おろす」という除法の筆算のアルゴリズムを活用して、筆算の仕方を考えていくようにする。商の見当づけや商をかく位置が、確実に身につくようにもしていく。そして、桁数が増えても同じように計算をしていけばよいことにも気付かせる。

単元の導入には買い物場面を扱い、「 $80 \div 20$ 」「 $80 \div 30$ 」の立式がスムーズに行えるようにする。計算の仕方を考えていく時は、お金を用いるなどして10を単位ととして考えると「 $8 \div 2$ 」「 $8 \div 3$ 」という既習の除法で考えられることに気付かせる。2位数でわる計算が初めてなので、自分たちの考え出した商が正しいかどうか、既習の方法で商の確かめをする必要がある。また、「 $80 \div 30$ $8 \div 3 = 2 \dots 2$ 」の「あまり2」は10円玉が2個余ったということで余りは20であることを理解させるために答えの確かめは大切になってくる。ここで、計算の後に答えの確かめをする習慣をしっかりとつけさせる。

児童が既習の学習内容を活用しながら自分なりの考えで解決できるように、実際に具体物や半具体物を使って分けたり、図や絵をかいたりする算数的活動を通して、考えていくことを大切にしていきたい。

3 単元の目標（詳細は、評価規準参照）

- (1) 商が1位数の除法をもとに、商が2位数になる除法の筆算の仕方を進んで考え出そうとする。(関・意・態)
- (2) 商が1位数の除法をもとに、商が2位数になる除法の筆算の仕方を考える。(考え方)
- (3) 何十でわる暗算や2位数でわる筆算ができる。(表・処)
- (4) 2位数でわる計算の仕方や除法に関して成り立つ性質がわかる。(知・理)

4 単元計画（詳細は、評価規準参照）

- (1) (何十) \div (何十), (何百何十) \div (何十) で商が1位数になる暗算 2時間 (本時1 / 2時)
- (2) (2位数) \div (2位数), (3位数) \div (2位数) で商が1位数になる筆算 3時間
- (3) (3位数) \div (2位数) で商が2位数になる筆算 2時間
- (4) わり算に関して成り立つ性質, 性質を活用した計算 2時間
- (5) 桁数の多い計算(電卓を使って) 2時間
- (6) 練習問題 2時間

5 本時の学習指導

(1) 本時の目標

- (2位数)でわるわり算の学習課題をとらえ、計算の仕方を考えようとする。
- (何十)÷(何十)で商が1位数になる暗算ができる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動 ・ 意 識 の 流 れ	支 援 と 留 意 点
<p>1 題意をとらえ、どんな式にかけばよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1個8円のあめならば$80 \div 8$だから同じように考えて$80 \div 20$、$80 \div 30$でいいのかな。 $80 \div 8$は習っているからできるよ。20や30みたいにわる数が2桁になっけていてもできるかな。 <p>2 $80 \div 20$の計算の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図をかいて考える() 10を単位として考える($8 \div 2 = 4$) 答えの確かめもしてみる($20 \times 4 = 80$) <p>3 $80 \div 30$の計算の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図をかいて考える() 10を単位として考える($8 \div 3 = 2 \dots 2$) 答えの確かめもしてみる($20 \times 4 + 20 = 80$) <p>4 練習題をし、計算の仕方に慣れる。</p> <p style="text-align: center;"> $40 \div 20$ $90 \div 30$ $60 \div 30$ $80 \div 40$ $50 \div 20$ $90 \div 20$ $90 \div 40$ $70 \div 20$ </p>	<ul style="list-style-type: none"> 80円持って買い物に行き、1個8円、1本20円、1本30円のあめが売っている場面を設定する。それぞれのあめが何個買えるか予想させ、意欲化を図る。 $80 \div 20$、$80 \div 30$の計算は、除数が2位数であることに着目させ、既習の計算と異なることを確認する。 計算の仕方を自由に考えさせる。絵や図、式などをかき、説明しやすくするよう伝える。 考えを発表し合い、$80 \div 20$は$8 \div 2$の計算で商4と見当がつけられそうなことを確認する。 20円が4つだから、20を4倍し80になることを確かめる。 【関】「(何十)÷(何十)の計算を、わる数が1位数のわり算と同じ考え方でできることに気付き、同じようにしてみようとする」 B: $80 \div 20$の計算は、10を単位にすると$8 \div 2$の計算の考え方と同じであることをノートにまとめることができる。 A: Bに加えて、余りのある場合でも、余りの位を間違えずに計算することができる。 $8 \div 3$から商2と見当がつけられ、30を2倍すると60で80円と比べて余りは20円になることを確認する。 余りのあるわり算の答えの確かめ方を振り返る。 10を単位として被除数と除数を比べ、商の見当をつけて計算することを確認する。 答えの確かめもするよう伝える。 【表】「(何十)÷(何十)で商が1位数になる暗算ができる」 B: 何十÷何十の計算がおおむねできる。 A: 何十÷何十の計算(余りのある場合の暗算)において確かめができる。

